こんにちは　日本共産党市会議員　＜議会報告＞

玉本なるみ です

連絡先：日本共産党北地区委員会　☎075 - 432 - 3261

2018年2月①号

京都府八幡市の中学校給食
温かく美味しい給食でした！

八幡市は昨年４月から、中学校の給食を小学校の給食室で作り、中学校に運ぶ方式（親子方式）を導入し、全員が同じ給食を食べる全員給食を開始しました。丁度、配膳室に運び込まれる所から見学させてもらい、試食もさせていただきました。生徒さん達が温かい給食を笑顔で食べる姿と、教育委員会次長の方から生徒たちに栄養と成長を保障するために力を尽くしているとの説明に感動しました。

京都市の中学生の子ども達にも、小学校で作る美味しい温かい給食を食べさせてあげたいと強く心に刻みました。

トラックからカートで小学校から中学校に運ばれます。

月から木はご飯で金曜日はパンでした。

簡易宿所（民泊）で火災（東山区）
心配していたことが起こってしまいました！

京都市内に民泊が増えています。住宅地にある場合、問題になるのが、管理者が不在の場合の対応です。中でも、「火災が起こった時」の問題です。

＜火災報告＞

・日時　2018年１月20日（土）22時21分
・発生場所　東山区本町八丁目67番地の１
・概要　離れのトイレ外壁に設置の白熱電球にかぶせられたタオルから出火。泊り客は韓国の高校生3人。
・隣の住人が焦げ臭いニオイに気が付いて、窓を見たら炎が立っているのが見え、知らせに行ったが、インターホンがなく、ドアを叩いても、寝ていて、なかなか気が付かず、なんとかギリギリ間に合い、消火できたとのこと。隣の住人が気が付かなかったら、火災が広がり、人命にも影響がでていた重大事態です。
・しかも、火災が発覚してから管理者が到着したのが40分後だったとのこと。

対応策は管理者が、常駐することです。外国の方にとっても、安いからと言って、見知らぬ土地で管理者もいない民家などの簡易宿所で、困った時にすぐに聞けないような宿は、**おもてなし**に欠けると思います。

簡易宿所（民泊）の多くは、管理者を常駐させず、チェックインの時だけ、説明にくることで、済まそうとしています。人件費を削り収益をあげるためです。

人の命にも関わる問題です。許可をする京都市の責任も大いに問われる問題です。

１月２７日に日本共産党京都府委員会と京都市会議員団、府会議員団が開催した『**民泊シンポジュウム**』には、旅館・ホテルの関係者の方や弁護士、民泊について運動されてきた住民の皆さんなど多くの方にご参加いただき、今後の民泊問題について、たくさんのご要望が出されました。引き続き、市民の安全な暮らしと街づくりに向け、取り組んでいきます。

市バス特37号が
1日4便・増便！

地域の住民の皆さんの切実な要望である特37号の増便と延伸が一歩前進しました。３月15日から要望の強かった早朝６時台と夜の９時台の時間帯等の便が増便されます。さらなる充実と、今後も延伸の運行に向けて頑張りましょう！

アンテナ
いつまでも心に

先日、共に政治革新や地域の要求実現のために活動してきたKさんが亡くなられました。福祉の現場で働き、いつも明るく、周りを励まし、元気な方でした。ここ数年は病気と闘いながら、頑張っておられました。絵画は本格的に取り組まれ、個展も開かれました。葬儀場にはKさんの作品がたくさんある中から選ばれ展示されました。自然を愛し、たくさんの作品を残されましたが、広島の原爆ドームとひまわりの絵には、平和への思いが強く伝わってきます。宣伝の時の自前のタペストリーや看板もよく手作りしてくれました。才能を活かし、みんなの心に残る絵を残してくれたことが嬉しく羨ましくも思います。Kさんの意志を引き継ぎ、未来に残る歴史をしっかり残せるよう頑張りたいと思います。

ホームページを開設しています。ぜひ、ご覧下さい。http://tamamoto-narumi.jp/